

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

選択・計算・論述・記述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

描図問題が出題されなかった。

その他トピックス

解答用紙の分量が増加した。

地学問題Ⅲの問4は、2021年度第2回京大入試オープン地学問題Ⅲ問4とズバリ！の中である。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野 (テーマ)	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 計算 論述	銀河系 系外惑星	地学	問2(2)は問題で与えられた条件を読み落としてしまうと正答にはたどり着けない。問4(4)は惑星の見かけの等級を問われて戸惑ったかもしれないが、(3)がヒントとなる。	やや難
II	選択 論述	大気運動 オゾン層	地学	大気海洋分野の大問で計算が出題されないのは珍しい。問2は、ハドレー循環と偏西風波動の役割の違いなので、それぞれのはたらく緯度帯について述べるとよい。問5の分野は、ほとんど出題例がない。	やや難
III	記述 選択 論述 計算	プレート テクトニクス 重力異常 地震	地学	問4は定番の論述であり、手際よくまとめたい。問7(1)は(あ)～(え)の選択肢それぞれについて妥当性を考えると正答にたどり着けるだろう。	やや易
IV	選択 論述 記述	地質平面図 新生代の地史	地学	問1については、簡単な断面図を描くと解きやすくなるだろう。問2や問3、問6など新生代の地史に関する出題は珍しい。問6は、問題文で述べられている地震による隆起と合わせて論述するとよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本学は、論述問題の比率が極めて高い。また、計算問題も多く出題される。解答用紙の解答欄の大きさを見て、くじけそうになるかもしれない。論述や計算の対策に十分な時間をかけるべきであり、時間配分にも十分気をつける必要がある。また、出題頻度の低い問題に備えるためにも、教科書にも十分目を通すこと。そして、過去問演習を繰り返すべきである。